

平成 28 年 6 月 6 日

松阪市議会議長

大平 勇様

楠谷 さゆり

研修参加報告

研修テーマ「地方議会論（7）-行政と議会」

講師 松井真理子氏（四日市大学総合政策学部教授）

日時 平成 28 年 6 月 3 日（金）14:40~16:10

会場 四日市大学

記

「地方議会論」という 15 回の講義の、第 7 回目である。今回は、四日市市議会の森智広議員を講師に迎え、行政と議会の関係について、パワーポイントを使用して学生にもわかりやすく説明。若い世代も投票所に足を運んでほしい、との願いを込めての講義だった。

まず、行政と議会の違いは、行政は市長をトップとした△（三角形）で、頂点が市長である。

四日市市で言えば 4000 人規模。一方、議会は、議長は存在するが□（四角形）で、構成員はたった 34 人（四日市市）。しかし二元代表制のもと、行政（市長）と議会は対等の立場である。二者の距離は、議会がチェック機構であるからには友好的過ぎではないが、対立ばかりしては予算が通らない。一定の距離を保っていくことが必要である。

議会には、予算案採決と条例案採決といった二つの大きな役割がある。どちらも行政側が提案（作成）し、議会側が審議して可決か否決かを定めるものであるが、条例については、議会も条例案を作成することができる。立法府に匹敵する議会が作成した条例は、行政が拒否することはできない。

四日市市では、議員提案条例が、森議員が当選してからの 5 年間で 4 件あり、活発に提案されていると考えられる。その中でも「四日市観光大使設置条例」については、森議員が行政の広報公聴課に提案しても受け入れられなかった後、一期生議員 10 名に働きかけて、さらに先輩議員を一人ずつ回り、最終的には満場一致で可決、行政に条例を設置させたものであった。

さて、四日市市の選挙（数字は直近の市長選）の最近の動向として、投票率の低下が懸念される。特に若い層が足を運ぶことが極端に少ない。有権者全体では 34.90%の投票率であるが、20代ではわずか 18.72%、30代では 26.12%しかない。これを平均の 34.90%に引き上げるだけで 9000 票が増える計算になる。つまり、キャスティングボードは若い世代が握っていると言っても過言ではない。若い世代が政治に参加すれば、世の中を変えることができることを強調。

最後に、政治は遠いものだという気持ちがあるのは理解できるが、地方政治は人々の生活そのものであり、政治が世の中を創っているのだということを力説して、講義は終了した。

所感

森議員は二期目であるが、次期市長選出馬も視野に入れているだけあって、非常に熱意溢れる講義であった。大学の講義だけで議員としての資質を云々は言えないが、わかりやすく噛み砕いた説明や、38歳という若さでの、より若い世代への政治参加（投票、将来の立候補を含む）の訴えが学生に届いていることを切に願う。